

食育事業取組報告書(教育支援センター車野校)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育^てる・作^る・食^べる 返す	実施年月日	令和6年 4月16日(火)～11月15日(金)
教科名	生 活 (自 立 活 動)	指導者	
単元名	農 業 体 験 か ら 、 食 育 を 考 え よ う		
ねらい	- 川東コミュニティセンター農場や車野校畑での野菜栽培、調理実習を通して児童生徒の「食」への関心を高める。 - 農業従事者及び関係の方々との触れ合いを通して、農業の大切さを知るとともに他者との交流の機会にする。 - 育てた野菜を使った調理実習をすることを通して、収穫の喜びや調理する楽しさを実感し、「食」に関する興味を高める。		
児童・生徒の活動		支援・指導上の留意点	資料
<農業体験> 1 ジャガイモ収穫体験 <7月24日(水)> 2 玉ねぎ収穫体験<6月20日(木)> 3 さつまいも収穫体験<10月10日(木)> 4 牛舎見学体験<11月15日(金)> <食を作る体験> 1 調理実習<9月27日(金)>		○苗の植え付け(4月16日) ・板山食農班の方々にご指導いただき、30cm間隔で植える。 ○草取り(5月8日) ・苗を傷つけないように、根を残さないように草を取る。 ○草取りと肥料やり(5月24日) ・苗を傷つけないように、根を残さないように草を取る。 ・ジャガイモの茎に直接かからないように肥料をまく。 ○収穫 ・イモを傷つけないように周りの土から掘って収穫する。 ・取り残しがないようにすべて収穫し、日に当てない場所で保存する。 ○ 玉ねぎの栽培についての話を聞く ・4～5月、植える2週間以上前に堆肥と元肥を施して畝を作る。 ・茎の白い部分が出るように10～15cmくらいの間隔で苗を植える。 ・追肥やこまめな草取りを行う。 ○収穫体験をする ・収穫適期である茎が倒れた状態を確認し、引き抜いて収穫する。 ・収穫後は、一定の期間乾燥させる。 ○ さつまいもの栽培についての話を聞く ・肥料を施し、畝をつくり、苗を斜めに植える。 ・水は、あまり多くやりすぎない。 ○収穫体験をする ・畝の外側、地中の生え方に気を付けて、手で土を掘り収穫する。 ○牛舎の見学を実際に行う ・菅谷の中野牧場で、乳牛の管理について実際に見る。 ・衛生面に注意し、乳牛を刺激しないよう見学するなどの指示を守らせる。 ○酪農についての知識を深める ・乳牛の体のしくみ、育て方、牛乳が届くまでの生産工程等を聞く。 ※紙芝居や拡大図録等を使って、分かりやすく説明してくれた。 ※乳牛への愛情の注ぎ方や「いのち」の話をきくことができた。 ○活動後、感謝の気持ちをお礼の手紙にして届ける。 ○収穫したジャガイモを使ってカレーライスを調理する。	   
成果と課題	○ 板山食農班、JA北新潟女性部、新発田市農業サポートセンターの方々のご協力により、作物の育ち方や乳牛の様子等を知ると共に、収穫の喜びを味わえた。 ○ 実際に育てた野菜を調理し、みんなで食べることを通して、生きる力の育成と共に、自身の食生活を見直すよい機会となった。 ○ 子どもたちの心情や特性をより一層把握し、自主性や協力を更に育む食育体験ができるよう創意工夫を進めていきたい。		
家庭・地域との連携	○ 旧車野小施設校舎において、板山地区食農班の皆さんにお世話になり、畑作りからジャガイモ栽培・収穫まで本格的な農業を体験することができた。また、収穫したジャガイモ一部を新発田市のフードバンク、新潟市のこども食堂に寄付することで、地域で行われている民間福祉活動に眼を広げることができた。 ○ さつまいも収穫、玉ねぎ収穫、牛舎体験と様々な体験を支えてくれたJA北新潟女性部も今年度限りで活動を中止することとなった。それを踏まえ、これまでの活動に対しての感謝の気持ちを伝える会を設定し一人一人にその思いを伝えることができた。		